



九州歯科大学 図書館だより NO.80

あるものを探している時に、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけ、それが後々思わぬ成果をもたらすという「セレンディピティ (serendipity)」という言葉。読書はそれに出会う最たるもので、多くの蔵書を持つ本学図書館はその宝庫です。日頃は、試験勉強や講義の準備で、当面の目的のための本しか読めないとしても、図書館から退館する前、10分間でも、街の本屋で書棚にずっと目をやるように、図書館でも目的以外の専門書や一般書の書棚に目をやる時を持ってみませんか。きっと、心惹かれるタイトルの本に出会うと思います。

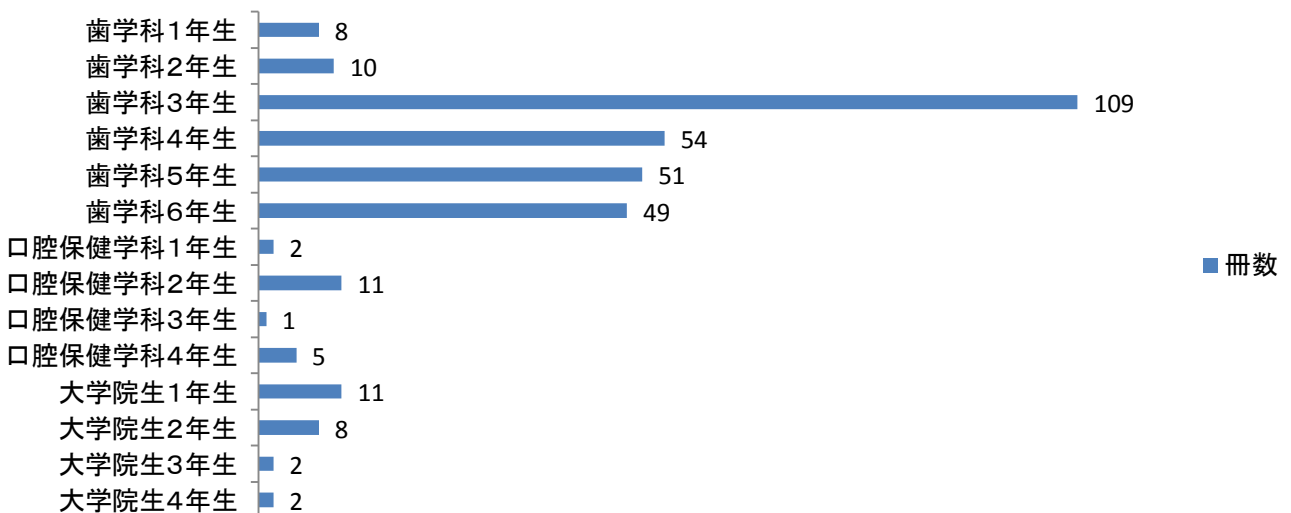
季節は既に春に向かって確実に歩みはじめています。この新しい季節に、図書館での読書で新しい世界に出会う機会をもち、自分をより深く広くすることに取り組んでみてはいかがでしょうか。偶然の本との出会いで生まれる「セレンディピティ」。それはきっと皆さんの人生に豊かな実りをもたらすはずです。
学務部長 赤嶺 勇司

貸出ランキング

- 1位 コンプリートデンチャーテクニク / 細井紀雄[ほか]編
- 2位 加齢・補綴・補綴総論 加齢変化 全部床義歯学 部分床義歯学 冠橋義歯学 / 麻布デンタルアカデミー編
- 3位 歯科国試answer 歯科補綴学2, 全部床義歯学/部分床義歯学/ DES歯学教育スクール編
- 4位 歯科放射線学 / 麻布デンタルアカデミー編
- 5位 歯科衛生士国家試験完全攻略: 科目別国家試験解説 / 日本医歯薬研修協会編著
- 6位 血液 / 医療情報科学研究所編
- 7位 免疫・膠原病・感染症 / 医療情報科学研究所編
- 8位 必修 108回国試突破version / 加藤和英著
- 9位 基礎 108回国試突破version/ 加藤和英著
- 10位 部分床義歯学 / 麻布デンタルアカデミー編



貸出冊数(1月)



選書ツアーおすすめ本



『彼女について』 吉本ばなな

もともと吉本ばななが好きだったので読んでみました。この作品の主人公は飾ることが嫌いな少しひねくれた考え方がある若い女性でとても共感できる点が多かったです。最後には驚きのラストがあり読んでいて鳥肌が立ちました。吉本ばななの本に出てくる主人公は大体お金に困っておらずむしろ世俗的な人たちを皮肉って精神的な何かを求めている点がまた惹きつけられます。

『手紙』 東野圭吾

両親に死なれ、弟と二人暮らしの武島剛志は、弟の大学進学のための金欲しさに空き巣に入った家で殺人を犯し、刑務所に入ってしまう。孤独になった弟の直貴の元には毎月、獄中の兄から手紙が届きます。進学、恋愛、就職、その度に直貴は「強盗殺人犯の弟」という素性の為に挫折を繰り返すこととなります。なんとか結婚し娘が生まれると、今度は娘が差別をうけてしまいます。犯罪者の家族を描いた感動作品です。

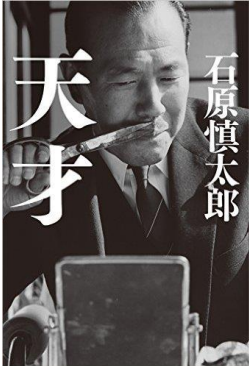


『天才』 石原慎太郎

本著は田中角栄の生涯について書かれた本だが、文章の主語が「俺」という一人称で表現されているのが非常に特徴的である。このため、まるで田中角栄本人が書いた回想録のようになっており、田中角栄の人となりが見事に読者に伝わりやすいものになっている。さらに、著者である石原慎太郎は田中角栄率いる自民党の政治家だったことがあり、その政治を間近で見ている人物なので、非常に臨場感溢れる内容になっている。田中角栄とは何だったのか、そして今の日本に足りないものは何なのか、この国が目指すべきものは何か、そんなことを考えさせてくれる一冊である。

本の後半は彼の人生が少しずつ転落していき、物事が思い通りにならず悩む姿が描かれており、読んでいて悲しい気持ちになった。同時にそれは日本において今日まで続く様々な政治・社会問題が噴出した時期とも重なるため、彼が政治にもっと関わっていたらもう少し良い世の中になっていたのではないかと、とも思った。

石原慎太郎と田中角栄の人間味溢れるエピソードが書かれた長い後書きは必読である。



『血の季節』 小泉喜美子

最後のどんでん返しにまさかと思われた小説でした。そもそも始まりは、精神異常者と思われる初老の少女殺害事件から始まります。殺人犯を死刑から逃れさせたい弁護士が、博士に相談します。精神病棟で、殺人犯と思われる男の思い出話が始まり、博士がそれを聞いて真相を暴いていくのですが、段々と話がオカルトめいたものになっていきます。しかしそれをあくまでも冷静に分析する博士。ある単語が出てきた途端に今までの伏線が怒涛のように解決でき、全ての謎が解けます。読み終わったあとに放心状態になること間違いなしの1冊でした。

